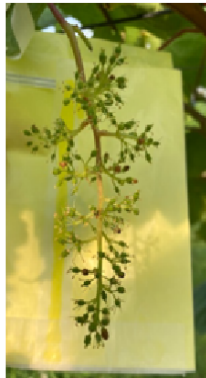


令和4年度 ACTR

分類 番号	A10	取組 名称	京都在来ブドウ品種‘聚楽’の復活栽培に向けた技術開発と新たな利用方法の開発
研究代表者所属・職名：		生命環境科学研究科・教授	氏名： 板井 章浩
研究担当者： 京都府立大学（板井章浩、森本拓也） 外部分担者・京都府農林水産技術センター農林センター丹後農業研究所（久木崎孝弘主任研員）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） 京都府農林水産技術センター・農林センター・丹後農業研究所 京都大学大学院農学研究科			
<b>【研究活動の要約】</b>			
高台寺近くの民家の庭先で100年生に近いブドウ樹が発見され、このブドウは、京都において安土桃山時代から栽培の記録があり、昭和になって絶滅した‘聚楽’ブドウまたはその子孫である可能性がある。今年度、生命環境学部附属農場に植栽した聚楽苗により着花が見られ、着果の特性や、果実発育特性、さらに収穫果実を得て、果実形質調査および成分調査を行った。また‘聚楽’を用いた新品種開発に取り組んだ。			
<b>【研究活動の成果】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培特性として、開花期は‘巨峰’等に比べて7-10日ほど遅く、また非常に花振るい（果粒の落果）が多いことが判明し、その要因として花粉の発芽率が低いこと、樹勢も強いことが原因となっていると考えられた。</li> <li>・果実の糖度も今年度も平均18°台と高く、糖組成はブドウ糖と果糖をほぼ等量含むことが明らかとなった。</li> <li>・‘聚楽’を用いた新品種開発に取り組み、‘聚楽’ X ‘ナイアガラ’の組み合わせで後代種子を得た。</li> <li>・培養の条件検討を行い、ウイルスフリー化を行ったが、すべてのウイルスを完全に除去できなかった。</li> </ul>			
<b>【研究成果の還元】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. R4. 8. 19 フランス・アンジェにて開催された国際園芸学会（ISHS）において、 「Characterization and phylogenetic analysis of the ancient Japanese grape variety ‘Juraku’」学会発表</li> <li>2. R4. 3. 10 京都府立大学生命環境学部附属農場 市民約30名 精華キャンパス ACTR 成果発表会</li> <li>3. Acta Horticulturae 誌に「Characterization and phylogenetic analysis of the ancient Japanese grape variety ‘Juraku’」投稿</li> </ol>			
<b>【お問い合わせ先】</b> 生命環境科学研究科 資源植物学研究室 教授 板井 章浩 Tel: 0774-93-3253 E-mail: <a href="mailto:itai@kpu.ac.jp">itai@kpu.ac.jp</a>			

栽培特性の評価



開花時



落果



収穫時

花振いが多い

花粉の発芽率の調査

マスカットオブアレキサンドリア	46%
聚楽	15%

聚楽花粉の発芽率が悪い

果実形質 調査結果

糖組成と有機酸組成

糖組成 (mg/mL)			有機酸組成 (mg/mL)					
品種	ブドウ糖	果糖	品種	酒石酸	リンゴ酸	クエン酸	全酸含量	
聚楽	106.7a	102.3a	209.0a	聚楽	19.42a	4.74b	0.98b	25.14b
甲州	82.0b	88.1b	170.1a	甲州	15.14b	15.87a	1.94a	32.95a

ショ糖は含まれず  
ブドウ糖と果糖がほぼ等量

有機酸含量に特徴  
全酸含量は低め  
酒石酸中心 リンゴ酸、クエン酸含量は低い

聚楽はワイン製造に適している！